

平成 26 年度

福祉行政にかかわる指定管理者評価委員会 議事録

■日時：平成 26 年 8 月 4 日（月）午後 1 時 30 分から午後 4 時 00 分

■場所：大和市保健福祉センター5 階 501 会議室

■参加

出席委員：4 名

小野委員、北林委員、桐原委員、藤野委員

【次第】

1. 開 会
2. 委員長あいさつ
3. 職務代理の選任について
4. 本日のスケジュールについて
5. 事業報告・評価（案）の説明・質疑応答・意見交換
6. その他
7. 閉 会

以下、要旨記録

1. 開 会
2. 委員長あいさつ
3. 職務代理の選任について
 - ・小野委員長より桐原委員を指名。
4. 本日のスケジュールについて
5. 事業報告・評価（案）の説明・質疑応答・意見交換

（1）障害福祉センター松風園

○「資料 1-1:障害福祉センター松風園事業評価(案)」「資料 1-2:障害福祉センター松風園事業報告書」「資料 1-3:障害福祉センター松風園事業報告概要」に基づき、指定管理者による事業報告及び担当課による評価案の説明の後、委員からの質疑応答、意見交換を行った。

＜質疑応答＞※以下、指定管理者＝指定、担当課＝担当と表記

委員：第2松風園の事故報告について、ヒヤリハットとにこりほっとというものがあるがにこりほっととは何か。

指定：にこりほっとについてですが、職員は利用者と接している中で、ヒヤリハットや事故など、普段はマイナス面に目がいきがちですが、利用者がほのぼのとした行動をしたとき、たとえば、机やいすを並べたりするときに手伝っていただくなど、利用者の良い面や、ほっとすることがあったときにあげています。これは毎朝報告するもので、書式等に記録するものではないので、実質的にはもう少しあると思います。

委員：ヒヤリハットの件数はどう捉えればよいか。この数は適正か。前年度比は。

指定：ヒヤリハットについては300の小さな事故があると、大きな事故が起きるといわれているので、300未満であれば適正かと思います。昨年度と比べると少なくなってきました。

委員：ヒヤリハットの中で、表に出にくく、間違いが起きやすいものとして、服薬の管理があると思う。実際に気を付けていてもそういうことが起こり得るという前提でいろいろな工夫をしていると思うが、どのように確認をしているか。

指定：各施設には必ず看護師を配置しています。服薬時には看護師が薬を配布し、職員が介助して、看護師の目の前で服薬をするようにしています。通所施設を利用している人がケアホームを利用するときに、その薬のやりとりに複数の職員がかかわることがありますが、必ず複数の職員で確認するようにしています。本来飲まなければならない薬が届いていないこともあるので、そのようなときは利用者が服薬を終えるまで担当職員が残って対応するような仕組みをとっています。

委員：決算の中に、人件費積立預金というものがあるが、どういう目的で積み立てているのか。

指定：法人運営は、毎年報酬や利用者数によって左右されます。指定管理でお受けするお金は5年間同じですので、ある程度余裕がある時に、人件費に充てるお金を用立てています。報酬改定によって地域加算があがったり下がったりして、今の単価が維持されるか分からないので、何かあったときのためにということで、積立金はすべてその目的に合わせて用立てています。

委員：今年度、松風園として24年度と比較して、事業内容や目標が異なる点、成果を上げた点は。

指定：独自事業として、26年度はすでに松葉の家を開設しました。第2松風園は2階となっていますが、エレベーターの改修が見込まれましたので、階段のないところで、肢体不自由の利用者を受け入れる施設を整備していこうと考え、25年度の取組みに盛り込んで、準備をしておりました。もう一つは保育所等との交流ということで、地域移行やインクルーシブ教育という考えから、平成25年の秋から養護学校への受け入れについての考え方が変わってきておまして、地域へ地域へと、障がいの方を受け入れるシステムをつくっていこうという流れになっておりますので、そ

れに対応するために保育所等訪問支援事業の充実や障害児相談支援事業の充実を図ってきたと考えています。児童発達支援事業や放課後等デイサービスを利用して松風園で療育を受ける人が非常に少ないので、今後、高校生ぐらいまでは利用できるような運営にしたいと考えています。

委員：今の話を受けて、評価をされる側としては、訪問支援事業の充実等を評価していただきたいと考えているのではないかと。評価案は、昨年度のものほとんど変わらないように見えるが、こうした新しい取り組みや充実した内容について評価することで市民に伝えることができるのではないかと考えている。

委員：親御さんの高齢化に伴って、そうした問題に取り組む必要もあるのではないかと。

指定：つい最近も、親御さんの体調不良でお子さんを介護できる状況ではなくなり、相談事業所の職員が奔走して、短期入所施設を確保するなど動いたこともあり、積極的に取り組んでいます。現在在宅で生活することが困難な利用者に対しましても、頻繁に足を運んで、まだ正規入所にはなっていないですが、正規入所に結び付くように短期入所を連続して使っていただけるような取り組みをしている部分もあり、そのことをふまえても、ケアホームの整備が必要になってくるのではと考えています。次回の指定管理を受けたときには具体的に検討していきたいと考えています。

委員：知的障害の利用者の親御さんが要介護認定を受けた場合、介護関係の職員と連携して対応するという実際の例はあるか。

指定：勤務していた職員の中で高齢者の住宅を経営している者がいますのでその施設とタイアップして、その施設を利用できるような工夫を今考えております。その他の特養とも関わりがあるので、共同でできるところはやっていきたいと考えていますが、法制度が異なるので、そういった場合は実費負担ということがどうしても起こってくるのでその対応をどうするかは今後考えていく必要があります。社会福祉法人の連携・提携について進めていくことを視野に入れていきたいと思えます。

委員：来年社会福祉法が法改正されて、社会福祉法人の地域貢献・社会貢献が義務付けられることについてはどのような対応を考えているのか。

指定：現在も自己負担をしながら、地域交流事業を展開しています。一つの方法として、地域移行・地域支援という意味合いで公開講座等を積極的に行っています。また、在宅の利用者に対しての検診は本来であれば利用者負担ですが事業費の一環として対応しており、これも一つの貢献なのではと考えています。さらに幅広い役割が求められた場合は法人としてできることに取り組んでいきたいと考えます。

<評価案についての意見交換>

委員：今年度は25年度の評価として、拝見したところ、昨年度とほとんど同じ内容になっている。今年度、松風園が力を入れてきたことを評価してほしいということがあると思う。そこを評価の中に詳しく入れたらどうか。

委員：防災時の取り組みについて、3日分の備蓄というのは、一般家庭の目安にはなっているが、障害者施設でも3日分というのは適正なものなのか分からないので教えてい

ただきたい。

担当：松風園は通所施設ですので、通所施設の場合、防災食を用意している施設のほうがほとんどないと考えられます。生活の場は自宅であり、基本的には指定の避難所に市が備蓄しているものを受け取ることになると思いますが、帰れない利用者や職員を考慮して備蓄しているのではないかと考えられます。

委員：独自事業にかなり力をいれたとおっしゃっていたし、どういう形で反映していただけるか。

担当：平成24年度の評価では視点2の中で、訪問支援事業について評価させていただきましたが、平成25年度については実績もあることから視点1の部分でサービスの向上が図られたということで評価させていただきます。

委員：具体的に書いたほうがよい。

② 障害者自立支援センター

○「資料2-1:障害者自立支援センター事業評価(案)」「資料2-2:障害者自立支援センター事業報告書」に基づき、指定管理者による事業報告及び担当課による評価案の説明の後、委員からの質疑応答、意見交換を行った。

<質疑応答>

委員：毎年、次年度の課題を出していただいている気がする。前年度の課題の改善状況について聞きたい。

指定：相談支援事業についてですが、相談をご利用される方が幅広くなってきていて、就労支援事業のスタッフもスキルアップをして、個別の状況に応じた支援をしていかなければならないというところですが、平成25年度は専門性の高い相談員を配置したことで個別の支援ができたのではと考えています。

委員：スキルアップが非常に重要になってきている。特に多様性の問題と法制度の改正に対応していかなければならないと感じている。スキルアップについてくわしく聞きたい。

指定：法人の人材育成の方針に基づいて、相談支援職員に対して初任者・中間職・管理職の研修が行われています。自立支援センターの職員に対しては発達障害・精神障害の特性や、医療機関との連携についての研修などを、ポジションに応じて計画的に受けてもらっています。

委員：計画的にというが、事業報告に入っていないようだが。

指定：研修についても入れるようにします。

委員：平成25年度は人件費が増えて、収入の増があまりなかったように見えるが、平成26年度以降はどうか。

指定：収入の大きな柱の一つである、就労移行支援事業についてですが、就労者が昨年度後半から多く出ていて、就労して退所される方の人数が、新しく入所される方の人数より上回っている状態で、今年度も始まって3か月が経ちますが、就労の実績を

だせているところでは嬉しい反面、事業の収支というところでは非常に厳しい状況になっています。新しい方に利用していただくための営業活動をしています、事業の宿命で、頑張って就労する方ができればほど、利用される方が減って収入も減ってしまうというところで、制度の難しさと危機感を感じています。

委員：施設だけでなく、町内会など近所からの支援も大事だと思う。今まで「こういうことが良かった」という経験はあったか。

指定：地域の方との出会いのチャンスがなかなかない方もいますが、つかずはなれずの関係で見守ってくださる方はすごく多くいらっしゃいます。特別なことでなくても、普段から顔見知りということで、いつもと違うなということがあった時に連絡をいただいています。

委員：地域の中で、いろいろな方が出会う場として、年に数回、清掃活動がある。強制的なものではないので、家族の方などと一緒に参加してみてもどうか。自然な形で分かり合い、参加しない人がいると、周りが気にかけることもできる。

指定：報告のなかではあまり詳しくお伝えできませんでしたが、地域でのお祭りがある時に、お手伝いをしたり、地域とのつながりを大切にしています。周辺の清掃活動にも参加しています。

委員：エンパワメント視点での取り組みはあるか。

指定：社会生活上必要なスキル、就労に必要なスキルは、職安等の専門機関に協力していただきながら身につけられるように取り組んでいます。また、当事者同士の活動も支援しています。

委員：当事者活動の支援も盛り込んだ方がよい。

指定：分かりました。

<評価案についての意見交換>

委員：もう少し丁寧に書かれた方がよい。

委員：視点4「事業収支は良好であり…」とあるが、平成25年度は法人本部から多少補てんをしているので、赤字というわけでもなく、事業は充実していると思うが、松風園と同じような書き方というのはあまりよくないと思うので工夫していただきたい。

③まごころ地域福祉センター

○「資料3-1:まごころ地域福祉センター事業評価(案)」「資料3-2:まごころ地域福祉センター事業報告書」「資料3-3:まごころ地域福祉センター事業報告概要」に基づき、指定管理者による事業報告及び担当課による評価案の説明の後、委員からの質疑応答、意見交換を行った。

<質疑応答>

委員：評価案に「事業収支は昨年度に比べ改善している」とあるので、事業報告も昨年度と比較できるようにしていただきたい。収入のところで、予算と決算の差が一番大

きい事業が老人デイサービス事業だと思うが、利用者数の問題なのか、それとも、別になにか要因があるのか。

指定：目標設定では定員30名のうち80%、1日平均24名の利用で試算していますが実際は1日平均22.4名であったので、予算より少ない収入額となりました。また、報酬について、昨年度中に時間延長を図って、報酬増を図るという見積もりでしたが、時間延長ができなかったので予算に比べて少ない結果となりました。

委員：利用者の男女比は。

指定：曜日によって異なりますが、男性は2割～3割です。

委員：男性が過ごしやすいような工夫はしているか。

指定：職員によると、男性に人気があるのはカラオケ、比較的若い方だと、機械を使った簡単なリハビリが非常に人気であるようです。しかしカラオケは好みが分かれるため、なかなか実施しにくく、ご指摘のとおり男性の利用者が楽しめるレクリエーションの開発というのが課題だと認識しています。

委員：アンケートを実施しているということだが、24年度の結果を踏まえて、25年度に改善したことがあれば教えてほしい。

指定：デイサービス事業では、食事とレクリエーションが、評価が分かれる項目です。食事は調理をお願いしている企業組合の方々と何回か打ち合わせをして食事内容の工夫等改善を図りました。レクリエーションについては先ほどお話したとおり、これといった改善策は取り組めていません。スタッフが新しくなったことをふまえ、第3金曜日の定例スタッフ会議では毎回研修を行い、スキルアップを図りました。子育て支援センター事業では、離乳食コーナーの設置について、以前からニーズが多かったため、改善を続けてきていますが、最近はこうした施設環境の整備に対する要望が多く、なかなか改善できない状況になっています。また、お母さん方から体を動かすプログラムの要望があり、20歳前後で出産された方のつどいでは、リトミックやベビーヨガ等を、研修を受けた職員が担当して、取り組みました。

委員：それは報告書に出ているか

指定：そこまで細かくは記載していませんが、20ページにある各つどいで実施しており開催日数を増やしました。

委員：地域包括支援センターにおける、地域ケア会議の成果は。

指定：同じ方を対象とした地域ケア会議を3回実施したところ、参加している地域住民の方が自身の老後を考えるようになり、進んで地域福祉活動見学会等に参加していただくなど、自分ごととして捉えていただけるような変化が、生まれてきております。

委員：子育て支援センターについて、横との連携というのはよくあることなのか。

指定：相談機関であれば、どこも他機関連携をおこなっていると思いますが、指定管理者評価委員会の場で、こうした連携について統計として出してみてもどうかというご指摘をいただいたことで、このように統計で出すようにしました。行政のご協力もあり、情報共有の機会をいただいて、様々な機関と連携させていただいています。

委員：素晴らしいことなのでぜひ続けていただきたい。

指定：子育て支援について、祖父母に対する、接し方の講座などの支援はあるか。

委員：26年度の新規事業として、グランパ・グランマの集いというイベントを年2回開催するというので、既に1回実施しております。

<評価案についての意見交換>

委員：独自事業などで、かなり変化している部分、アンケートに対して応えている部分があるようなので、そこを評価していただきたい。

委員：講座の開催回数を増やしたり、地域ケア会議を開催していることなどを評価に入れたほうが良い。

委員：3事業者の評価案に共通することだが、松風園の評価案のように、指定管理事業と独自事業をしっかりと分けることで、独自事業に対する取組みを評価するようにしていただきたい。

6. その他

7. 閉 会

以上